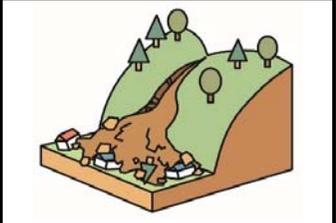




■大雨・洪水警戒レベルと行動		
<b>■大雨警報や氾濫(注意、警戒、危険、発生)情報を聞いて取るべき行動</b> <b>■非難は履き慣れた運動靴で!</b> <b>(長靴は水が入って重くなり危険)</b>		
警戒レベル	避難情報	住民がとるべき行動
警戒レベル 5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保!
~~~~~<警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難!>~~~~~		
警戒レベル 4	避難指示	危険な場所から <b>全員</b> 避難
警戒レベル 3	高齢者等避難	危険な場所から <b>高齢者等</b> 避難
警戒レベル 2	大雨・洪水・高潮注意報	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認
警戒レベル 1	早期注意情報	防災気象情報などの最新情報に注意するなど、災害への心構えを高める
「避難勧告」は廃止され「避難指示」に統一されました		

**■土砂災害の気配を知る!**  
**長雨、豪雨から>土石流**  
 <泥水と土砂が速く流れる>  
 長雨や集中豪雨で岩や土砂が水と一緒にとなって一気に流れる



- ゴーツという山鳴りがする。
- 急に川が濁って流木などが流れに混ざり始める。
- 土臭いにおいがする。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。(上流でせき止められて溜まっている。)

**■新型コロナ関連**

**■避難所での感染症防止対策**

- 避難する時は、マスクや体温計、除菌液を持っていく
- 避難所に入るとき、その後も定期的に体温を測る
- ・発熱やせき、強いだるさといった症状があったら運営者に知らせる
- 頻繁に手洗い、咳エチケット励行
- 「密集」「密接」「密室」回避**
- ほかの人と2mほど距離を確保する
- 人と向い合せではなく背を向けて座るようにし、間仕切りを利用する
- 換気を充分行う
- ・1~2時間に1回、5~10分程度以上
- 個別スペースの確保**
- 感染症状の出た人は個別スペースを確保し、他と動線やトイレを分ける
- ・同じ症状が有る人同士でも、別室やパーティションなどで区切る
- 分散避難**
- 安全な場所に住んでいる親戚や知人などがいればそこに避難

**■新型コロナ関連**

**■家族に感染(の疑い)が出た場合**

- 過ごす部屋を分ける
  - ・出来るだけ一つの部屋から出ない
  - ・食事は別々の場所でする
  - ・寝るのも別々にするか、難しい場合はカーテンやついたて等で仕切る
- 看病する人を決める
  - ・マスクと手袋をつけて看病し、使った後は部屋から持ち出さない
  - ・看病の後には手洗いと除菌する
- こまめに換気をする
  - ・症状のある人の部屋だけでなく、共用部や他の部屋も定期的に換気
- 手で触れる共用部をこまめに消毒
  - ・ドアノブや手すりなどの共用部分は1日に1回以上除菌液で消毒する
- 洗い物は家族と一緒にでもOK
  - ・感染者の衣類などを洗濯する場合は、手袋とマスクを着用して一般的な家庭用洗剤で洗濯し、完全に乾かす
- ゴミは完全に密閉して捨てる
- 同居家族も外出を避け、健康観察

**■災害に備えて…(1)**

- ★車のガソリンは極力満タン
  - ・半分になる前に必ず満タンに。
  - 災害経験者必奨の対策!!
- ★水・食料の備蓄(1週間分)
  - ・飲料水は1人1日2リットル
  - ・風呂の水は抜かない(トイレ用)
- ★家族の集合場所は普段から必ず確認しておく!
- ★非常持ち出し袋等は、**持出し易い玄関などに!**
- ★携帯の充電方法の確保
  - ・停電が続いた場合でも、携帯を充電する方法を準備しておく!
- ★薬やメガネは自宅以外にも
  - ・車の中や職場等に予備を!

**■災害に備えて…(2)**

- ★家具類は固定する
  - ・震度7では家具が飛んでくるので突っ張り棒等で固定!
  - ・避難路となる出入り口付近には家具や大型家電を置かない!
- ★窓のカーテンは閉めて寝る
  - ・ガラスの割れ→飛散を防止
  - ・本来は飛散防止フィルムが理想
- ★懐中電灯は何箇所かに置く
  - ・夜中に家のどこで被災しても懐中電灯に手が届くように!
- ★枕元にはスニーカー
  - ・足裏をガラス等で切ると避難生活や災害復旧が困難に!
- ★ハザードマップはダウンロードして携帯に入れておく!

**■災害情報検索キーワード**

- 愛媛の災害速報  
**「えひめ force」**
- 気象庁防災情報  
**「気象庁 防災」**
- 愛媛の河川・砂防情報  
**「愛媛 河川 監視」**
- 津波情報(NHK)  
**「NHK 津波情報」**
- 道路情報(四国地方整備局)  
**「四国 道路情報」**
- 防災情報・ハザードマップ  
**「防災マップ ○○市」**
- AED設置場所  
**「日本全国AEDマップ」**

**■悲しくても写真を撮っておく**

- 片付けに入る前に、まず被災状況の写真を撮る。罹災証明、保険の査定、税金の控除等で必要
- 外側、室内、あらゆる角度から
- 浸水の場合は、床上何cmか?ものさしになるものを添えればベスト
- レシートは何でも取っておく
- 応急処置に使ったもののレシート、業者に払った費用の領収書など
- 後から公的支援が受けられる場合があり、その時に必要
- 電気・水道・電話といった公共料金の領収書は居住の証明になる
- 保険会社への連絡
  - 被災したことを連絡しておく
  - 保険会社が分からない場合は、日本損害保険協会「自然災害等損保契約照会センター」(フリーダイヤル0120-501331)に問い合わせ